

南太平洋の小さな島：フィジーからの便り #4

2024年5月派遣 天野久雄（シニア）
第4号 10月10日



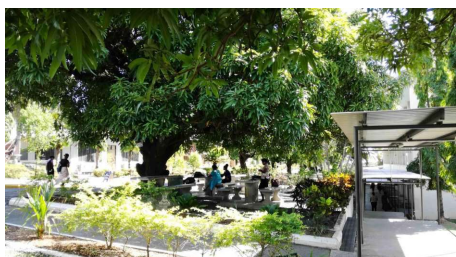
こんにちは。フィジーで活動中の天野です。今回は私が働いている大学の話をします。フィジー国立大学はフィジー国内および南太平洋地域から多くの学生が来ています。現在、約2万人の学生と1800人以上の教職員が在籍しています。私が活動しているのはラウトカのエデュケーション学部と大学院です。教育学部はナンディやほかの場所にもあり、講義やワークショップの一部はオンラインで中継されます。



大学キャンパスは、ラウトカタウンの郊外にあります。人が少なく静かな所です。大学のとなりに小学校と高等学校があります。遠くに海が見えます。敷地内には管理棟、教室、講堂、図書館、学生寮があります。カフェテリアや売店、オープンデッキ、バレーコートもあります。講堂や会議室、教室はイントラネットで結ばれています。日本の大学と比較すれば小規模ですが、施設はかなり充実している

と思います。オーストラリアやニュージーランドを除いた南太平洋の島国の中では、最大規模だそうです。

私たち教員は管理棟内に個人オフィスを持っています。空調やイントラネットも整備されていて、とても仕事がしやすい環境です。土曜日は授業がありませんが図書館はオープンしています。テスト期間が近づくと学生たちはそこで勉強しています。私は大学のすぐ近くに住んでいるので、歩いて行きます。☺



私が教えている学生の多くは、教育学部の学生です。講義やワークショップ(ゼミ)は、小学校の数学教育を専攻している学生が対象です。学校制度が日本と違うので、フィジーの小学生は日本の中学生までが該当します。フィジーでは、一般的に、ほとんどの子どもが幼稚園から高等学校まで通います。プライマリースクールは8年間で、セカンダリ-スクールは4年間です。驚くことに、小学校の時から定期

試験があります。進級基準に達しないと落第します。ただし基準は学校によって違います。さらに驚くことは、幼稚園によっては、ここでも定期テストがあります。私の近所に住む幼稚園児は、土曜日も補習授業やテストを受けるために、タウンまで親と一緒にタクシーで通っています。

フィジーは多民族国家です。そこで幼稚園のときから授業は英語で行われています。教科書も英語で書かれています。ふだんの生活ではヒンディー語かフィジー語を使います。小学校の高学年になると、学生たちは英語を自由に使いこなします。大学生は読みと書きが私よりも速いので、これは内緒ですが、彼らのスピードについていけないときがあります。1.5倍速？私の印象としては、ほとんどの大学生たちのTOEICスコアは満点でしょう。私は満点保持者でないのに、正確には分かりませんが。インド系の先生たちはヒンディー語なまりの英語で、しかも早口で話します。巻き舌の発音と、すべて下り坂のイントネーションにやっと慣れました。☺

管理棟 カフェテリア 図書館



ホステル（寮） 中庭



教室棟



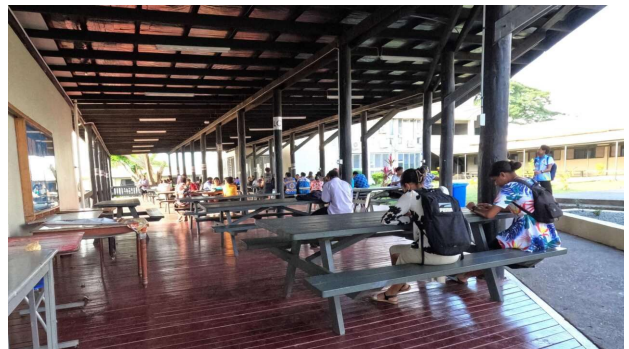
図書館



講堂 バレーコート



学生用 オープンデッキ



カフェテリア 学生&職員用



カフェテリア 食品

